



青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和5年度 第219号 2月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

昨年11月25日(土)に行われた子育てフォーラムでの講演会の様子をお伝えします。



子育てフォーラム青木2023

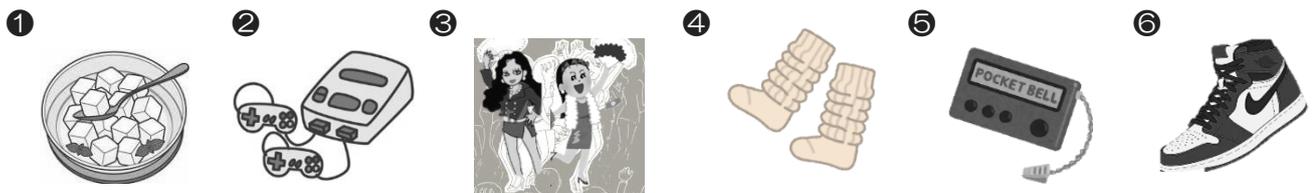
講演会 「子どもとメディアとの関わり方」

子どもとメディア信州 講師 町田 祐介さん

私は千曲市教育委員会で、ICT コンピューターについて先生方や子どもたちに支援、指導をしていく立場にありますが、今日は「子どもとメディアとの関わり方」ということでお話をさせていただきます。前方の画面をみてください。これは私が持ってきたドローンのカメラ映像です。(会場で小型ドローンを飛ばしている)千曲市では、小中学校でプログラミング教育のために自分たちでドローンを自動操縦します。1人1台の端末が導入されていて、画面上の中だけのプログラミングだと子どもたちに驚きや喜びを体験させてあげることができないので、市で20台導入し、6年生対象に順番にプログラミング教室を実施しております。



それではクイズです。これは30年前に一斉風靡したのですが、さて、皆さん①から⑥まで全部分かりますか?お近くの人と『これなだっけ?』と思いついてみてください。



『①ナタデココ、②スーパーファミコン、③ボディコン・ジュリアナ東京、④ルーズソックス、⑤ポケベル、⑥エアマックス。』正解です。素晴らしいです。ありがとうございます。30年前はこんな時代だったので。今の小中学生に聞くと2つぐらいは分かります。④のルーズソックスは、最近リバイバルして履いている子がいるので知っています。②のスーパーファミコンは、子どもたちはゲームのことをよく知っているの分かります。一番分からないのが⑤です。「これは何?」ポケベルは忘れ去られた存在です。でも、30年前私が高校生だった時には憧れのアイテムでした。ポケベルを持っていなかったため、当時お付き合いしていた女の子と連絡を取るのに、10円玉を握りしめて公衆電話から電話をかけ、ワンコールしたら切る。すぐにまたかける。そんな面倒なことをしていました。どうしてか分かりますか?『自分がかけているよということを伝えて、親が出ないようにする。』ありがとうございます。さすがですね。

そんな苦労をしてコミュニケーションを取っていましたが、今はこのスマホがあればどこにいても直接

すぐに繋がる、いい時代になりました。世の中は変わりました。今は学校で1人1台のコンピューターを使う時代です。そして授業の中でドローンを飛ばす時代です。子どもたちが社会に出て活躍する30年後はどんな世の中になっていると思いますか？実は経団連が来たるべき日本の姿、未来の社会ということで、【ソサエティ5.0 超スマート社会】と銘打ってプロモーション動画を作っています。今の私たちではちょっと想像できない技術が色々入ってきています。新しい技術、どんな技術があるのか、ということに注目しながら映像を視聴してください。

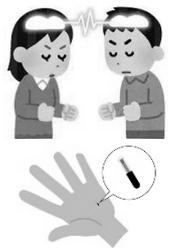


動画視聴中 

どんな先端技術に気が付くことができましたか？これ凄いなと思ったことをお話してもらいます。



『一番は医療技術が凄いなと思いました。次に話さなくても脳波とかを読み取って、テレパシーのように会話できることが凄いなと思いました。少し怖い気もしました。』ありがとうございました。最近話題になった、手の親指と人差し指の水かき部分のところにICチップを埋め込んで、入り口でピッ



てやると開く、そういうことがもう始まっています。今観た映像の中でもすでに実用化されているものもあります。

この映像が作られたのは5年ぐらい前ですが、運転手のいない自動運転とかありましたね。ほぼ2年後には実用化すると思います。外国人と通訳しながら話していた映像ですが、リアルタイムとはいきませんがGoogleの翻訳機能を使えば、今もほぼ同じようなことができます。自分の言語で世界中の人と意思疎通ができる、あながち夢物ではないと思います。子どもたちが生きる30年後の世界、もしかしたらそれより先に行っているかもしれません。

先ほど映像の中にありましたが、このような社会を【ソサエティ5.0 超スマート社会】と言います。予想がつきにくく現在解決できていない様々な問題の中で子どもたちは生きていかなければならない。この中で一番ICTが必要だとしている場面が高齢化社会です。イギリスの学者さんがこんなこと言っています。【日本人の半分は将来107歳まで生きて、日本人の平均寿命は100歳を超える。】本当かな？と思いますが、100歳を超える社会が目前に来ています。そうすると、今の年金制度でさえ苦しいのに、私が65歳、70歳でリタイアした時に、はたして年金をもらえるのか心配です。今の若者はもっと苦しいです。そうなってくると60年、長い人は80年、自分で仕事をしてお金を稼いでいかなければならない社会が来るかもしれないです。



さて、30年でもこれだけ大きな変化があるのですから、子どもたちが今まで教えてもらってきた知識だけで仕事をしていけるかどうかわかりません。生きる力を学びながら自分自身をアップデートしていける能力を、子どもたちに身につけさせなければいけません。耳にした方もいらっしやると思いますが、それを【主体的共同的な学び】といいます。子どもたち自身が学び続けて新しい社会に対応していけることが大事で、実際企業が求める人材も変化してきています。2015年企業が必要としていたスキルはこのようなスキルです。①ミスがない。②責任を持って最後までやり遂げる。③誠実に取り組む。今の学校教育でも大切にしていると思いますが、このような真面目にコツコツ働ける人材はすごく重宝されてきました。しかし30年、50年先の未来では、それよりもさらに求められるのは問題発見力や的確な予測、新しいものを生み出す革新性です。今までのスキルだけでは社会に太刀打ちできないだろうと言われています。授業中、先生が前で話した事をノートに記録しそれを知識と



して覚えていく、そのような授業だけでは社会に対応する力を身に付けていくことはできません。子どもたち自身が興味を持って学ぶ事。将来的には国境を超えて様々な人たちと協力して学び、革新を起こしていく、そのために学校では1人1台のコンピューターを入れて学びに活用しています。

ここまで社会時代背景についてお話させていただきましたが、これから青木小中学校のメディア利用の現状について紹介させていただきます。

【子どもとメディア信州】は、長野県と長野県教育委員会さんと連携して、スマホPCゲーム機などのより良い関わり方に向けたアンケートを実施させていただき5、6年になります。県内の小学校3年生以上、中学生、高校生、保護者約10万人にアンケートを取っています。全国的にみても、これだけ大規模なアンケートを取っているところは他にないので、様々なメディア等で注目をしていただいております。

今年度のデータから紹介させていただきます。まず小学生です。青木村のアンケートは4年生から6年生なので、子どもとメディア信州のアンケートも4年から6年に直して比較していきます。

スマホの所持率 まず小学生です。あえて言うと家族と共用して使う人が多いと感じます。これを見ると子どもが個人で持っている率が少なくても良いと思うかもしれませんが、実はトラブルの多いのが家族と共用で使っている場合です。千曲市でメディアトラブルも対応しておりますが、ある児童が期せずしてアダルトサイトにアクセスしてしまったことがあり、その映像を観てすごく刺激を受けてしまいました。何が原因だったかということ、家族で共用しているタブレットで、夜な夜なお父さんがアダルトサイトにブラウザを使ってアクセスしていたのです。今のインターネットは、よく見るサイトを元に、色々なお勧め広告が出てくるので、子どもが使っている時にそのアダルトサイトの入り口がポッと出て来てしまい、そこから子どもが興味を持って継続的にアクセスするようになりました。もしご家族共用でタブレット、スマホを使っているおうちがありましたら、気をつけてください。親が知らないだけで子どもたちがそのような広告を目にしているかもしれません。



次は中学生です。こちらも小学生と同じ、家族で共用が多いです。ただスマホ自体いじる生徒がまだまだ少ないです。青木村全体で取り組んできた成果が出ているのかな？と思いますが、気をつけなければいけないのは、長野県では高校生になるとほぼ100%スマホを所持しています。スマホを誰もが持つ時代がすぐそこまで来ているので、青木村の中学生も高校に行くと同時にスマホを持つこととなります。上田市内の様々なトラブルなど経験してきた、使い慣れた人たちと同じ環境に放り出されることとなります。制限されて守られてきた環境の中から、そのような環境に投げ出されることで、ギャップが起きる心配があるのではないかと感じています。そこで、そのようなギャップを埋める学びや教育を家庭や学校で行う必要があるのではないかと感じました。



平日のデジタルメディアの使用時間 まず小学生です。大差はありませんが、5時間以上ヘビーに使ってる小学生が多いと感じました。中学生もほぼ県と同じぐらいですが、青木村の小学生は心配です。2・3時間、3・4時間で線を引かせてもらいましたが、3時間以上は色々なリスクがある時間帯です。だいたい小学生で15%、中学生の20%の人たちは大きなリスクを抱えています。休日になるとさらに小学生は凄いです。中学生は部活動を頑張っていて、自己実現に向けてよく規制できていると思います。やはり小学生に心配なところが多いかなと感じます。



スマホやPCの使用目的 青木小学校は、県の平均と比べても大きな特徴は見当たりませんでした。ちなみ

に他の小中学校でも講演させていただきましたが、そこでは動画が100%でした。小学生なので地域によってだいぶ大きな違いがあると思いました。

次に中学生です。こちらも県と比べていきます。やはり自分で規制していて制限をかけながら使っているなと思いました。調べ学習に使っている割合が高い。さすがICTを先頭になって進めてこられた箕田校長先生のいる青木中です。感銘を受けました。

SNS 関係 皆さんが一番心配されているのが、SNS だと思います。青木村の中学生は使い方がとてもよく出来ていると思いますが、これから先に様々なリスクに合うのではないかと心配しています。これは全国の犯罪被害にあった中学生の推移です。これを見ると確実に増えています。警察に相談された件数はまさに氷山の一角で、10倍くらいは抱えていると感じています。

まず小学生です。県と比べてあまり大きな傾向、違いはありませんが、ただ課金は【あおきっ子5か条】ではないようにうたっています。お家の方が「少しぐらいだったらいいかな」と課金をしてあげている部分もありますが、お家の方が分かっているところでは安心かなと思います。

続けて中学生です。中学生はやはり色々なトラブルを学んでいるので少ないです。色々な場所に講演会に行くと、スマホやネットで知り合った人と会ったことがあると答えた中学生はだいたい2、3人いますが、青木村は0人ということで本当によく自制できていて素晴らしいと思います。

さて、ネットでトラブルに繋がるのがまず一つは動画写真の投稿によるトラブルです。こちらの方を見ていきたいと思います。

皆さん、アイコンを見て何のアプリか分かりますか？左側がライン、次がインスタ、次がX（元 Twitter）、Tiktok、Facebook です。青木村の中学生は SNS の利用も自制できていると思います。この中に実は様々なリスクの大きな SNS と小さなものがありますが、皆さん分かりますか？情報流出はどれもリスクが大きいです。人と会うということからいうとインスタ、X、Tiktok、これらは見ず知らずの人とダイレクトメッセージもやり取りができてしまう機能があるので大きいです。ラインはまだその点では安心かなと思います。Facebook はそういう意味ではリスクも危険も両方ありますが、少ないです。

「個人情報流出」「グルーミング」「性被害」「フィッシング詐欺」「端末乗っ取り」などのリスクがありますが、特に中学生にリスクの大きいものは「個人情報流出」「グルーミング」です。

情報流出のリスクという事で、紹介していきたいと思います。ここに4つの写真を出させていただきました。どれも情報流出で個人情報が流出するリスクがある写真です。

どこから流出するか皆さん分かりますか？隣の人に先程と同じように聞いてみてください。小学校3、4年の授業で使ったことがあります。全部分かります。

『猫を写した写真は下のマンホールのロゴでどこに住んでいるか分かります。カフェの写真はコーヒーの水面に写っているところで情報が見えてしまい、目の写真は瞳に映っている景色とかが分かります。部屋で動画撮影しているのは周りの景色が映っていて特定できます。』素晴らしい名探偵ですね。ありがとうございます。今お話ししていただいた通りですが、マンホールは自治体で特徴があるので、少し映っていれば分



かってしまいます。カフェはカップの模様やお店独自のものを使っているのもあるのでそれでわかる部分もありますが、もちろん、中に映り込んだものでばれてしまいます。瞳に映った景色からは発信している場所が特定できます。地下アイドルがこれでストーカーに自宅を特定されてしまったというニュースがありました。今のスマホのカメラは超高精細です。拡大していけばどこまでも大きく拡大できます。そうするとかなりの映像を映り込みの状況から見えてしまいます。部屋で動画撮影する時、景色もそうですが、マニアの方になると電車の音、聞こえてくる踏切りの音、ブレーキの音で【これはどこの鉄道のどこの電車だ】ということまで分かってしまいます。マニアって凄いですね。ちょっとした写真から、個人情報はずっと蓄積されています。もちろん1つでは何か特定されてしまうことはありませんが、こういうものが数々と積み重なって、【この人はこの辺りに住んでいて、このお店に行って、この人と付き合っていて・・・】色々な情報が少しずつ集まってくると、個人情報は特定されてしまう。ちなみに今は特定代行屋という職業の方がいて、1件5000円で請け負ってくれるそうですが、今まで想像しなかった職業です。

さらに怖いのはネットは書き込んだ瞬間に情報がアップされることです。【バイト始めました!】と書き込むと様々なコンピューターにネットを返して情報がコピーされます。上げてしまってから「ちょっとまぶかったかな」と思い自分で削除しても一度出た情報は誰かが保存していて、もう消すことが出来ないの、デジタルタトゥーと言われていています。つい中学生や高校生の時はノリで写真や動画を投稿してしまいますが、大人になってみたら多分恥ずかしいものもたくさんあると思います。つい上げてしまった後で「しまった!」と思っても後の祭りです。青木村の小中学生も写真や動画の投稿をしたことがある子が2割ぐらいいますが、心配ですね。

個人情報入手について紹介しましたが、続けて性被害やグルーミングについて皆さんと考えていきたいと思えます。

青木村の中学生はまだ見ず知らずの人と出会った事はありませんが、これから高校へ行ったらどうなるかわかりません。私も含めてそうですが、恥ずかしい写真を送ったり、見ず知らずの人と出会ったりして性被害に合うなんて長野県では考えられないと思いませんか?実はSNSの中でそういうリスクに合う入り口はたくさんあります。これから動画を流しますので、中学生や高校生になったつもりで、どこからが性被害で、どこからが危ない部分に踏み込んでいるのか、そのポイントを探しながらご視聴いただきます。



動画視聴中 

～女子中学生が推しのアイドルのTシャツ欲しさに、見ず知らずの大学生とのメッセージのやり取りからダイレクトメールで連絡を取り合い、要求されるままに下の名前を教えてしまう。その後、Tシャツの受け取りに人の多いカフェで会い、最終的にカラオケで何人もの男性に囲まれてしまった映像～



どこから危険かという危険ポイントで手を挙げて答えてください。では一番危険な方から聞いていきます。

『①カラオケに行く ②カフェで会う ③名前を教える ④ダイレクトメールのやりとりをする』さすが青木村の皆さん素晴らしいですね。ダイレクトメッセージを送ってやり取りをするという事は、その後、継続的にやり取りが繋がっていく、なし崩し的に様々なことになってく可能性は0ではありません。決定的にダメなのは、名前を教えることです。自分の名前と呼ばかけられたりすると反応しやすくなる。ちなみに中学生にこの映像を見せると、中には「カフェで会ってもカラオケに行かなければ。」とか「2人で会わなければ大丈夫。」というお子さんもいます。青木村の中学生だったら大丈夫だと思いますが、中学生の感覚はそんなものです。やり取りをする中で、相手の人と現実には会わないので、一番都合のいい答えが返ってきます。「このTシャ

ツ欲しいわ。」とか「この人のファンです。」と発信していたので、女の子の好みを知っていて、それに合わせた会話をします。一般的にはテストで出るところを教えてあげたり、懇切丁寧に愚痴や悩みなどをよく聞いてくれます。家族の人に「テスト辛いんだ。」と話すとか「頑張りなさいよ。」と言われるのですが、「頑張ったらもっといいことあるかもしれないからさ。」など優しい言葉で信頼や共感や好感など長い時間をかけて信用させます。今回の場合はすぐ走ってしまいましたが、2、3ヶ月やり取りしながら、信頼や共感や好感を得る、そしてタイミングを見て誘い出し、そのことが性犯罪につながっていきます。

SNSでやり取りする中でも様々なリスクがあります。コメントの中で「写真を送ってよ。」なんて言われて、送ってしまうこともあります。男性が女性になりすまし、色々な悩みを聞いてあげて、「胸の写真を送って。」というのがありますし、1つのグループの中で10人でやり取りしていたつもりが、実は自分以外の残りの9人が同一人物で、別のアカウントを持っていてなりすまし「送ったほうがいいよ。」とか「この人の相談、絶対役立つから。」とはやし立てて送らせてしまう、そんな事例もあります。

1つ大事なポイントですが、児童ポルノ法というのがあり、自分の裸の写真を撮った時点で、例えばそれが自分の写真であっても、裸の写真を所持しているのは犯罪です。しっかり学んでいかなければいけないと思います。中高校生で多いのは、彼氏彼女になって色々な写真を送りあったりしている時は良いですが、振られたとか、捨てられたとかいって、リベンジポルノじゃないですが、持っていた写真を拡散させられることがあります。これは実際にあった事例ですが、男子小学生が自分の下半身を撮影した画像を1学年上の知人に送ったところ、グループラインに上げられて拡散されてしまった。女子中学生が「インスタで胸の写真を送らないと住所を特定する。」と言われ、写真をインスタに上げてしまった。女子高校生ですが、同級生の男の子の気を引くために自分の全裸の画像や動画を撮影し送ったところ、その同級生に拡散されてしまった。



千曲市でも色々な問題が起こっています。加害者側の事例として、男子中学生が女子になりすまして、男の子を釣って遊んだ。掲示板のところで女子中学生が女子高校生のふりをして男性とやり取りをしていて、そのうちにインターネット上のアダルト画像を自分でスクショをして「私の裸の画像を送るからあなたの裸の画像を送ってよ。」と男の人の画像を送らせて遊ぶ、そんな酷い事例がありました。「うちの子に限ってそんなことはない」と思うかもしれませんが、スマホやパソコンを部屋でやり取りしている子どもが何をしているのか分かりません。ちなみにそういう子どもはわりと成績優秀で学校でもリーダー格です。そのような写真をやり取りする時点で法律違反であることを教えていかなければいけません。

うちの子に限って、自分だったらそんな写真を送らない、と思うかもしれませんが、シチュエーションによっては送ってしまう事があります。中高校生時代を思い出してください。私は吹奏楽部に入っていました。が結構な縦社会で、先輩の言うことは絶対服従です。先輩に「お前ちょっと写真撮って送れよ。いいな！」なんて言われたら、中学生の自分なら先輩が怖くて送ってしまうかもしれないし、憧れの先輩とお近づきになれるチャンスがあったら送ってしまうかもしれない。絶対に〇か×ではなく、このようなシチュエーションだったらあるかもしれないということも考えなければいけないと思います。

子どもたちにはこのような話をしています。『SNSを使う時にはどんな小さな言葉でも写真でも投稿したものは世界中に広がるよ。その覚悟を持ってアップロードしてください。だから「恥ずかしい写真や動画は絶対送ってはいけないよ！」「それはラインだから大丈夫」とか「ダイレクトメッセージでこの人だけとのやり取りだから大丈夫。」そんなことは絶対にないよ。』と話しています。コメントや画像を書き込む時には必ず立ち止まって、自分の玄関にその写真を引き延ばして貼れないものは投稿しない。そこが投稿する時の1つのラインだと思います。そして、子どもたちにこんな



ことも紹介しています。断るスキルを身につけてください。例えば、大学生と女の子のやり取りの動画を観てもらいましたが、どこかで断らなければいけない場面が出てきます。断り方も色々あります。きっぱり断ったり、理由をつけて断ったり、無視したり、連絡できないようにしたり、話題をそらしたりする、色々な方法がありますが、実はこの中にはうまくいかない断り方があります。

実はずるずるってしまうのがこの2つです。「話しをそらす」今の関係も維持したいので、話題をそらして違うところに話を持っていく。「また今度ね。」「今度っていつ？」としつこく要求される可能性があります。「また今度ね。」と言った後、連絡先を削除するとか一切連絡しない、この人とは付き合わないならいいですが、そうでなければ「また今度。」では今度にならない。



それから「理由をつけて断る」例えば「先にそっちが送ったらね。」などです。ちなみに大抵の場合うまくいく最強の断り方を警察の方に教えていただきました。「それだけではできない。ごめん。親戚が警察関係者だった。」これを言うとやましい心を持っている人はそこから離れていきます。

そして唯一大人の人が協力できるのがフィルターの設定。そういうものを使って困った時にはお家の方や先生に話をして、警察に素早く相談するといいと思います。危なかった時の証拠をスクリーンショットしておく事が大事です。



健康面の話 中学生の視力は、1.0未滿の割合が40年で1.5倍に増えています。小さい頃からデジタルメディアを長時間使うので、最近顕著になった病気は、急性内斜視です。簡単に紹介しますが、急性内斜視というのは片方の目が寄ったまま戻らなくなる病気です。物が二つに見えたり、片目をつぶってみないとよく見えない状態になり、場合によっては手術が必要になることがあります。刺激の強いデジタルメディアを近くで長時間見続ける事が原因と言われています。それに加えて若者に黄斑変性症の症状が増えています。それからスマホ老眼とドライアイ。50代、60代の病気が中高生に発症しています。このような病気を防ぐための手立ての1つは20-20-20ルールです。アメリカで言われていて、20分電子メディアを観たら20フィート約6m離れた物を20秒間見る。これだけでだいぶリスクが抑えられます。肘から指先まで30~40cmぐらいあるので、メディアまでの距離はそれ使っていつも離れているかどうか確認をして使うと良いです。

学力低下を気にしている中学生が多いです。ゲーム時間とテストの正解率に相関性があると言われてます。長い時間使えば使うほど平均点が下がっています。1教科あたり17点ぐらい低いく、5教科で85点、こんなに差がついてしまいます。それでもあなたはゲームやスマホをたくさん使いますか？それから皆さんもご存知の通り睡眠は大事です。学習内容を定着させるには睡眠が必要です。長時間ゲームをやることによって睡眠が削られ悪影響が出ている見方もできるかもしれません。最新の研究ではそうではないというデータも出てきていますが・・・。

最近分かってきたことですが、睡眠時間は8時間、勉強も3時間やりました。しかしスマホやタブレットを3時間以上使うと成績が伸びないという結果が東北大学の研究で明らかになってきています。その研究には続きがあり、3時間未滿に制限したら学力回復に繋がったそうです。そう考えると3時間というのは結構大きな時間だといえます。依存症といえば、学校では薬物依存に対する教育を行ってきましたが、今はゲーム依存症が大きな問題です。私が中学校の教師をしていたクラスの中でゲーム依存症になって昼夜逆転してしまった子がいましたが、回復させる事はとても大変でした。

脳への影響です。生きるために必要な脳への刺激は、5歳までにやる必要があります。人間らしさは1歳から18歳までです。心の発達には10歳から18歳まで。それぞれの発達にはや



はり刺激が大切、五感が大切です。テレビゲームを子どもに与えて、メディアから得られるのは視覚、聴覚の刺激だけです。色々な匂い、触った感覚、味覚はありません。一番脳の発達に必要な時期に刺激が半分になってしまいます。そのことによって発達に悪影響があるのではないかと盛んに言われています。先日、県立子ども病院の講座でも同様なことが語られていましたが、一番脳が発達するこれらの時期にどれだけ色々な刺激を与えられるか、メディアはこの刺激が徹底的に足りないし、いい刺激ではないのです。そんな危険なものを大手メーカーが作り売っています。「アメリカは訴訟社会だから訴訟になるのではないか、賠償金などたくさんもらえるのではないか。」そういう意見もあります。

スマホの影響は、スマホが出始めてから 15 年程しか経ってないので、長期間使うリスクは実は誰もわかっていません。今の子どもたちが人体実験をさせられるようなものです。訴訟になると思うかもしれませんが、iPhone、Android、Google はそれに備えた機能をきちんとスマホに付けています。「デジタルベルビーム」とか「スクリーンタイム」という機能です。自分で使うアプリの時間を制限して自分の身を守る機能をきちんと付けています。そして最初使い始める時にリスクの説明をしてもらい同意しているので、皆さん自身できちんと管理しなければいけません。是非お家に帰ったら「スクリーンタイム」「デジタルウェルビーム」にアクセスしてみてください。



自分の身は自分で守る これからの子どもたちに求められている力です。小さいうちはフィルタリングや、家庭のルールで取り上げることも必要です。それと同時に今日、一緒に皆さんと勉強させていただいたような知識を、意識的に継続的に子どもたちにつけてあげることが大切だと思います。高校生、大学生になる頃には自分で危険からリスクを対処できるようにしてあげる、そうするとやはり遠ざけるだけではこの力は身につかない、適切に使いながら、お家の人と対話しながら、学校で学びながらやっていかなければいけないと思います。

自分の将来のために子どもたちが自分で決断する、これが大事です。お家の人に時間を無理やり制限させられたり、取り上げられたりしても絶対うまくいきません。きちんと対話しながら自分で「2 時間だったら頑張れる。」「2 時間半だったらいい。」というように子どもに決断させる。そして、スクリーンタイムの制限を自分でロックすること。お家の人たちが強制的にやってもうまくいきません。そしてルールをできるだけ具体的にしてください。例えば充電は必ず家族の目に届くリビングです。また学習中は目のつくところに置かない。子どもが守れると言ったルールを作って成功させてあげることが大事です。少し時間が延びてしまっても怒るのではなく、「自分からやめられてよかったね。」とか前向きに声かけしてあげることが大切です。また、ルールが守れなかった時のルールを作ることが大切です。そして、最後にトラブルがあった場合、相談するところを必ず話し合っておいてください。



まとめ スマホやネットの特性をお家の人も正しく理解して、子どもたちが自分でリスクを正しく判断できるようにしていきましょう。小、中学生のうちには青木村で取り組んでいるように、リスクを回避させてあげられるような仕組みを取り入れることも大事だと思います。リスクと対処法をしっかり学んで、最初に観ていただいたような未来社会、「ソサエティ 5.0 超スマート社会」を子どもたち自身が生き抜いて行けるように力を合わせて取り組んでいければと思います。長い時間ご清聴いただきましてありがとうございました。

編集後記 

メディアの過去、現在、未来についてをとても詳しくお話していただきました。どの内容も役に立つものだと思いますので、長い文章でお伝えしました。最後まで読んでいただけると幸いです。

